

## お仕事ファイル 21 看護師の仕事

高校生に人気の職業といったら？ 先生や保育士と並んで特に女子に人気があるのが看護師です。他の職業に比べると給料が高めで、雇用が安定していることなどが人気の理由。データを見ても平成元年におよそ40万人だった看護師の数が、平成26年には114万人にも！ でも一方で「仕事がきつい、夜勤が辛い」なんて声を聞くことも。その実態はどんなものなのでしょう？ そして看護師のみなさんのやりがいとは？ 今回は都心の大きな病院にお勤めの先輩にスタジオに来ていただき、また地方の小さな診療所にお勤めの先輩の声もあわせてご紹介します。



今回の働く先輩

倉持亜希さん（左）

インタビューゲスト：南田則子さん

ナビゲーター：野呂佳代

### 働く先輩紹介

Studio  
ゲスト

倉持亜希（くらもち・あき）さん

東京都中野区出身の35歳\*。看護師歴14年。東京・大森赤十字病院の外科病棟に勤務。

高校生のとき、友達に誘われて病院の「1日看護体験」に参加。自分がやったことに対し感謝されて、それで収入を得られる仕事って素晴らしいと感じ、看護師になることを決意。脳外科を経て外科病棟勤務。途中大学院に2年間通い、がん看護専門看護師の資格を取得。また厚生労働省に出向し、看護の視点から政策やシステム作りにかかわった経験も。

「がんの終末期の患者と家族にかかわっていききたい。最期の瞬間まで患者を支え、その後の家族を支える仕事をしたい」と倉持さん。

左上：勤務する大森赤十字病院の前で／左下：患者の血圧を測る／右上：朝、夜勤の看護師から情報を引き継ぐ／右下：入院患者に医師が回診するときも同行



Interview  
ゲスト

南田則子（みなみだ・のりこ）さん

静岡県浜松市出身の36歳\*。看護師歴13年。福井県池田町診療所の外来担当。

小さいころ母の知人に、意識のなくなってしまう人がいて、そのお見舞いによく病院に行った。すると看護師さんが「この人は話ができないけれど、こんなことを思っているんだよ」と教えてくれた。それ以来、看護師が憧れの職業になったという。9年間越前市の病院に勤務。結婚して子どもが生まれ、夫の実家のある池田町に。そして、診療所に勤務するようになった。患者のほとんどがお年寄り、診療所に来られないケースが多いため、毎日のように訪問看護を行っている。

「人口3,000人弱の町だからほとんどが顔なじみ。じっくり患者の話を聞けるのはよいのだが、何でもすぐに町の噂になってしまう（笑）」と南田さん。



左上：受付を手伝うことも。患者は知り合いばかり！／左下：訪問看護先のおばあちゃんと／右上：調剤は何度もチェックしながら／右下：採血や注射も大事な仕事

## お仕事データ【看護師の仕事をするには？】

### ■看護師の適性とは？

人とかかわる仕事なので、それさえ好きであれば看護師に向いていると言えるそうです。

倉持さんは、大学院時代の恩師の先生から「看護はミステリー」と教わったのだそう。例えば患者のベッドサイドに置いてある本や雑誌、家族の写真、時には荷物の置き方などから、患者の心境や家族との関係性を読み取れる場合があるそうです。

また、いつもイライラして看護師に当り散らす患者に「なんでなんだろう？」と思っているいろいろ話してみると、実は手術が不安でしかたがなかったことがわかったといいます。そうした患者の出している無意識のサインを読み取って相手の不安を解消していく、こうしたことも看護師の仕事の面白い部分です。

### ■看護師になるには？

一般的には高校卒業後、3年制の看護系短大や看護専門学校、または4年制の看護系大学に入学、卒業してから看護師国家試験を受験し、合格して初めて看護師免許が交付されます。

看護師の人数や、看護学科のある大学が増えている一方で、ほとんどの病院が看護師不足に悩んでいます。学生時代と実際の現場とのギャップに悩んだり、産休などを取った後に復職したくても医療の進歩についていけない、などが現役を減らして潜在看護師を増やす原因になっています。

【参考資料：下記、日本看護協会 HP → 日本看護協会とは → 看護統計資料室】

### ●看護師について詳しく知りたい方は…

HP

公益社団法人 日本看護協会

[www.nurse.or.jp](http://www.nurse.or.jp)

### ぜひ伝えたい！ ディレクターこぼれ話

ディレクターはもちろん、看護経験がありません。看護師のみなさんが仕事のどこにやりがいを感じているのか、正直わからずにいました。「病人を健康にするのはあくまで医師の仕事なのだから、看護師はそのサポートに過ぎないのではないか」と思っていました。しかし今回、ゲストの倉持さんにお会いして、なぜ彼女ががん看護の専門看護師になったのかを伺ったときに、謎が解けた気がしました。

誰でも人は死んでいくわけですが、幸せに死んでいくのと不幸な死に方をするとでは、絶対前者がいいわけですが、でも自分1人の力ではなかなか幸せな死に方を選んでくれないし、家族の力を借りても無理な場合があります。そういうときに、それを手伝ってくれるのは看護師しかいないのです。残された家族にとっても、身内の死に絶望してしまうか、乗り越える勇気を持てるかは、看護師次第と言ってもいいでしょう。そんな物凄く責任重大な仕事を、プライドを持って続けている倉持さんは素晴らしいと思いました。看護師を目指しているみなさんは、ぜひ番組中の“仕事のやりがい”の部分を聴いてみてください。